

学生支援 だより

TOHOKU UNIVERSITY
GAKUSEISHIEN
DAYORI

2017.4.1 No. 7



CONTENTS

P1	P2~P3	P4
<ul style="list-style-type: none"> ●ご入学おめでとうございます! ～新入生歓迎行事～ ●法律を守り、お酒の飲み方に 気を付けて! 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成30年10月 ユニバーシティ・ハウス青葉山 入居開始! 	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館を利用する時の注意点 ●学生相談所からのアドバイス

ご入学おめでとうございます!～新入生歓迎行事～

本学では、社会性や自主性の育成等のために、課外活動への参加を積極的に振興しています。特に4月は、学友会に所属する約180のクラブやサークルを中心に、各団体の紹介や歓迎の演奏・発表等、様々な新入生歓迎行事が行われます。これからの大学生活の不安を先輩方に相談したり、新しいことを始めるきっかけを見つけたりできますので、是非参加してみてください。

●スプリングフェスタ

4月15日(土)開催 (新入生歓迎合同演奏会のみ4月16日(日)13時30分開演)

文化系の団体が展示発表を行う文化フェスティバル、運動系の団体がパフォーマンスを行うスポーツフェスティバル、新入生同士の親睦を目的に開催される春のスポーツ大会、音楽系団体が一堂に会する新入生歓迎合同演奏会を、今年度から一つにまとめてスプリングフェスタとして開催します。



スポーツフェスティバル



文化フェスティバル

●ボランティアスタートアップフェア

4月6日(木)・8日(土)・10日(月)・13日(木)・15日(土)・19日(水)・25日(火)

仮設住宅支援、まちづくりや村おこし活動などを行っているボランティア団体が、活動内容の紹介などを行います。

法律を守り、お酒の飲み方に気を付けて!



昨年、本学では飲酒により救急搬送されたケースや飲酒に関連する事件により懲戒処分となったケースがありました。入学シーズンは、サークルや研究室等で行う懇親会等など、お酒に関わる機会が増えると思いますが、学部新入生の多くは未成年で、法律により飲酒が禁止されています。**未成年者にお酒を勧めることがないよう、未成年者は飲酒しないようにしてください。**また、お酒を飲むと気分が高揚し、普段とは異なる行動・言動をしてしまうこともあり、お酒の飲み方次第で命に関わる重大な事故・事件に発展します。**飲酒強要や一気飲みなどをしないよう、お酒の席では同席するメンバーに注意を払ってください。**

平成30年10月ユニバーシティ・ハウス青葉山入居開始!

ユニバーシティ・ハウス(UH)とは、日本人学生と外国人留学生が日常的な交流を通じて、国際感覚を身につけ、異文化理解を深め、入居しながら留学体験ができる**グローバル人材の育成を目的とする教育施設**です。部屋は、8つの居室とオープンリビング(共用)からなる独立したユニット「8LDK」から構成され、ユニット内で日本人学生と外国人留学生が共同生活を送り、アットホームな環境下でお互いが協調性・社交性を涵養します。1ユニット8人は、所属学部又は研究科が異なる入居者構成とし、日常的な交流を通じて、他分野の理解(文理融合)、勉学・研究意欲の増進を図ります。これまで入居を体験した4,000人以上の学生に対し、「**異文化理解**」や「**英語力をはじめとしたコミュニケーション能力の向上**」等の効果をもたらしています。

現在、本学は、UH三条、UH三条Ⅱ、UH三条Ⅲ、UH片平の4つの国際混在型学生寄宿舎を設置しておりますが、新たに**青葉山新キャンパスへUH青葉山を整備し、国際社会で活躍できるグローバルな人材を、より多く育成することを目指しております**。以下が、UH青葉山等の概要です。

UHの基本コンセプト

- 国際化を牽引できる人材の育成 (国際感覚の研鑽)
- 協調性・社交性の涵養
- 安全・安心な生活環境
- 高品質な生活環境



① UH青葉山の概要

- ❶ **所在地** 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1 **仙台市営地下鉄東西線青葉山駅南1出口から徒歩5分程度**
- ❷ **部屋数** 6棟合計**752室**(1ユニット8室×94ユニット、身障者用個室男女2室ずつの計4室を含む)
- ❸ **居室・オープンリビング概要**

居室やオープンリビングに生活に必要な各種設備を完備しており、身軽に入居し、キャンパスライフがスタートできます。また、管理会社が24時間365日サポートし、清掃、警備、施設や設備の故障・不具合、非常時に対応します。

居室：1室あたり約10㎡(6畳程度)

オープンリビング：1ユニットあたり31.68㎡



(居室イメージ図)



(オープンリビング イメージ図)

4 インタラクティブプラザ概要

400㎡以上、多目的室、ラウンジ、研修室、自動販売機コーナー、ミニコンビニ、準備室。
多目的室、ラウンジ等は稼働パーティションで用途に応じて、スペース調整可能であり、研修室は100人以上が講演等を受講可能。



(共通ラウンジ・多目的室イメージ図)



(研修室イメージ図)

2 UHでの生活状況

UHでは、入居学生(新入学生)が円滑に生活を送ることができるよう、先輩学生をUHアドバイザーとして配置しています。アドバイザーが主体となって、ウェルカムパーティー、旅行会、ユニット内での料理パーティーやゲーム大会等の入居者間交流を企画・実施します。



(バーベキューパーティの様子)

医学部3年・女子学生 UH三条Ⅱ入居中

私は、2年間UH三条で暮らし、4月からUH三条Ⅱで生活しています。2年生では、UHアドバイザーを務めさせていただきました。ユニットのメンバーとは、日々生活を共にする中で、より深い関係性を築くことができるようになりました。さらに留学生と共同生活することで、異文化を理解することも英語での日常会話を学ぶこともできます。

また、UHアドバイザーとしてイベントを企画・運営した経験も貴重でした。UHがより住みやすい場所になるように、入居者の代表として、アドバイザー同士で意見を交換しています。

工学部3年・男子学生 UH三条入居中

私のユニットは普段から共用スペースで過ごす人が多く、UHならではの「家にいながら学友がいつもそこにいる」空間を最大限に活用しています。みんなで勉強やゲーム、映画鑑賞をする他、持ち回りで夕食を作ったり、遅刻せぬよう朝起こし合うなど生活リズムや学習意欲が乱れがちな大学生活に刺激を与えるユニット独自の文化が自然と生まれました。

私はUHアドバイザーとして、そんな入居者たちが学生の自分たる学業に注力しつつ楽しく有意義な毎日を送れるよう、UH生活の質の向上のため日々改善点の提案とイベントの企画に努めています。8月に主催した夏祭り企画ではゲーム大会とかき氷の模擬店で好評を博し、学部や国を超えた異文化交流の場作りにやりがいを感じています。



(ユニットでの生活の様子)

図書館を利用する時の注意点

本学には附属図書館本館・分館・部局図書室等を合わせて約410万冊の蔵書があります。本学の学生は専門分野の学習・研究活動や教養を深めるためにこれらの図書を利用できます。また、学習のための施設・設備を利用することができます。**図書や施設・設備は、皆さんが公平によく利用できるよう、ルールを遵守しましょう。**



図書を借りる



借りたい図書と学生証（磁気カードの学生証のない方は利用証）と一緒にカウンターまでお持ちください。

※図書によっては、図書館内にある自動貸出機で借りることもできます。

※借りた図書を紛失したり汚した場合は同じ図書を購入するなどして弁償していただきます。

すみやかに図書館までご連絡ください。

図書を返す



返却期限日までに、本館・分館・部局図書室のカウンターにお返しください。

※期限内で予約が入っていない場合は、オンラインサービス「MyLibrary」にて所定の回数まで延長が可能です。

※分館や部局図書室によっては、閉館時も図書返却ポストへ返すことができます。

※返却期限日までに返さない場合、貸出停止のペナルティが科されます。

無断持ち出しの禁止

図書館の図書を無断で館外へ持ち出しはできません。

※必ず貸出手続きを行ってから持ち出しましょう。



「また貸し」の禁止

図書館から借りた図書や、学生証・図書館利用証を友達へ貸すなどの「また貸し」行為は禁止されています。

※図書の紛失などのトラブルが起きた場合、「また貸し」を行ったあなたの責任となります。



迷惑行為の禁止

図書館内で騒ぐ、図書や施設・設備を不当に占有する、所定の場所以外で飲食するといった、他の利用者の迷惑となる行為は禁止です。



これらの不正行為があった場合は、図書館の利用停止等となることがあります。また、大学の懲戒処分（戒告・停学・退学等）の対象となります。

学生相談所からのアドバイス

大学生活を始めるといことは、新しい環境に入って行くことです。それはとても楽しみですが、同時に、負担に感じることも少なくありません。新たな環境に入るとき、我々は、まず周りを注意深く観察します。それは、危険を察知し、それに対処するために必要なことです。その時、我々の目には「不安」のフィルターがかかっています。すると、周りの人が、自分と比べて、「優秀な人に見える」、「明るく社交的な人に見える」、「しっかりして大人びた人に見える」といったことが生じがちです（実は、周りの人からは自分も同様に見られています）。そして、焦る気持ちから、ついつい頑張りすぎて、飛ばしがち、肩に力が入りがちになり、その結果、心身ともに疲れやすくなります。

高い山に登るときは、一気に登らず、徐々に高さに自分を慣らしていく「高度順応」が必要です。高みを目指し、勢い込んでどんどん飛ばしていくと、最初は元気だと思っても、気圧や酸素濃度等の環境の変化に体がついていかずに体調を崩し、場合によっては高山病になることもあります。

大学生活においても、環境の変化に「徐々に慣れていくこと」が大切です。それが、「自分なりのペースを作っていくこと」につながります。

<学生相談・特別支援センターの連絡先> URL : <http://www.ccds.ihe.tohoku.ac.jp/>

学生相談所 Tel: 022-795-7833 Mail: gakuso@ihe.tohoku.ac.jp

特別支援室 Tel: 022-795-7696 Mail: t-sien@ihe.tohoku.ac.jp

